

船舶事故調査報告書

平成26年11月6日
 運輸安全委員会（海事専門部会）議決
 委員 庄司邦昭（部会長）
 委員 小須田 敏
 委員 根本美奈

事故種類	乗組員死亡
発生日時	不明（平成26年9月1日 05時45分ごろ以降のうに漁の操業を開始した時～06時45分ごろの間）
発生場所	不明（青森県佐井村牛滝漁港南南西方沖）
事故調査の経過	<p>平成26年9月3日、本事故の調査を担当する主管調査官（仙台事務所）ほか1人の地方事故調査官を指名した。</p> <p>原因関係者としての船長からの意見聴取は、本人が本事故で死亡したため行わなかった。</p>
事実情報 船種船名、総トン数 船舶番号、船舶所有者等 L×B×D、船質 機関、出力、進水等	漁船 雄栄丸、1.43トン AM3-17153（漁船登録番号）、個人所有 6.48m(Lr)×1.58m×0.64m、FRP ガソリン機関、30kW（動力漁船登録票による）、昭和54年5月16日
乗組員等に関する情報	船長 男性 75歳 二級小型船舶操縦士・特殊小型船舶操縦士・特定 免許登録日 昭和51年6月18日 免許証交付日 平成25年10月24日 （平成31年9月27日まで有効）
死傷者等	死亡 1人（船長）
損傷	なし
事故の経過	<p>本船は、船長が1人で乗り組み、佐井村矢越漁港を出港し、うに漁の漁場に向かった。</p> <p>僚船の船長は、平成26年9月1日05時45分ごろ、牛滝漁港南南西方沖の漁場において、船長と会話をした後、同漁場でうに漁の操業を開始し、06時45分ごろ、本船が無人の状態では僚船の方に流されて来ることに気付き、疑問に思って周囲を探したところ、本船の南方数十m付近で合羽の背中の部分に空気が溜まり、うつ伏せの状態で見えている船長を発見した。</p> <p>僚船の船長は、直ちに船長を僚船に引き揚げ、人工呼吸を行い、漂流していた本船をロープで僚船に繋ぎ、牛滝漁港にえい航した。</p> <p>船長は、むつ市内の病院に搬送されたが、08時59分ごろ死亡が確認され、死因は溺水と検案された。</p>

<p>気象・海象</p>	<p>気象：天気 晴れ、風向 南東、風力 1、視界 良好 海象：海上 平穏、潮汐 上げ潮の末期、海面水温 約21～24℃ 佐井村には、9月1日05時33分に濃霧注意報が発表された。</p>
<p>その他の事項</p>	<p>本事故発生場所付近でのうに漁は、06時～07時の間のみ許可されており、船長は、本事故当日、06時の操業開始に合わせて自宅を出発した。</p> <p>本船は、発見時、うにを採る網、救命胴衣及びうにが入った籠が置かれており、船外機はチルトアップされた状態であったが、操業中に使用する小型の電動船外機の電源は入っている状態であった。</p> <p>本船付近には、箱眼鏡が浮いていた。</p> <p>船長は、合羽を着用して長靴を履いていたが、救命胴衣を着用していなかった。</p>
<p>分析 乗組員等の関与 船体・機関等の関与 気象・海象の関与 判明した事項の解析</p>	<p>不明 不明 不明</p> <p>船長の死因は、溺水であった。</p> <p>本船は、牛滝漁港南南西方沖の漁場において、05時45分ごろ船長が僚船の船長と会話をした後、06時45分ごろ、無人の状態で見られ、うにが入った籠が置かれていたことから、05時45分ごろ以降のうに漁の操業を開始した時から06時45分ごろの間において、うに漁の操業中に船長が落水したものと考えられるが、落水した状況を明らかにすることはできなかった。</p> <p>船長は、落水して溺水したものと考えられるが、溺水に至った状況を明らかにすることはできなかった。</p>
<p>原因</p>	<p>本事故は、本船が牛滝漁港南南西方沖の漁場でうに漁の操業中、船長が落水したことにより発生したものと考えられる。</p>
<p>参考</p>	<p>今後の同種事故等の再発防止に役立つ事項として、次のことが考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 1人乗りの漁船の船長は、漁労に従事中は救命胴衣を着用すること。